

令和元・2年度 中野区教育委員会「学校教育向上事業」研究指定校

中野区立啓明小学校 研究発表

研究主題 学びに向かう力、人間性等を育てる国語科授業

～ICTを活用した授業実践を通して～



はじめに

子どもたちが大人になったとき、本校の教育目標のように『やさしく、かしこく、たくましく』世界をリードし、変化に対応し、共に社会を創造していく人になってほしいと願っています。考え方や習慣の違う人と、一緒に仕事をしていく時代になり、共に解決策を探っていくことになります。そのためには、「何を知っているか」という知識だけではなく、知識や技能を目的のために使えるか、それを他者への敬意と共感を込めて行えるか、が重要となってきます。ICTの使用も必須です。そこで、中野区教育委員会「学校教育向上事業」研究指定校として、ICTを活用した授業実践を通して、「学びに向かう力、人間性等」を育てる国語科授業に取り組みました。

本校の教員は、主体的・協働的に取り組む授業を工夫し、日々実践して参りました。本日、子どもの姿で研究の一端をご覧ください。

このような研究の場を与えてくださいました中野区教育委員会の皆様、本研究の推進にあたりご指導、ご後援を賜りました講師の皆様に、深く感謝申し上げます。

中野区立啓明小学校 校長 中村 明子

1 研究構想図

学校教育目標
よく学び よく遊び
やさしく かしこく たくましく

児童の実態
 ○本を読むことは好きである。
 ○ICT を活用することで授業は分かりやすいと感じる児童が多い。
 ○自分の思いを文章に書くことは得意である。
 △自分の思いや考えを友達に伝えようとする気持ちはあるが、交流して深めることは苦手である。

令和2年度 中野区 指導目標より
 ○一人ひとりの可能性を伸ばす（確かな学力の定着）
 ・児童の主体的・対話的で深い学びの展開及び学習評価の充実を踏まえた授業改善
 ・ICT を効果的に活用した学習の充実

研究主題 **学びに向かう力、人間性等を育てる国語科授業**
 ～ ICT を活用した授業実践を通して ～

研究の仮説
 ICT を効果的に活用した学習の充実を図ることで、発達の段階に応じた主体的・対話的で深い学びが促進され、国語科における学びに向かう力、人間性等を養うことができる。

目指す児童像

低学年・・・ICT に親しみ、言葉がもつよさを感じ、思いや考えを伝え合う子
 中学年・・・ICT を活用して、言葉がもつよさに気づき、思いや考えを伝え合う子
 高学年・・・児童がICT を活用して、言葉がもつよさを認識し、思いや考えを伝え合う子

研究主題に迫るための手だて

手だて1 言葉がもつよさに触れる

- 言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりする。
- 言葉から様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで心を豊かにする。
- 言葉を通じて人や社会と関わり自他の存在について理解を深める。

手だて2 思いや考えを伝え合う

- 国語に対する関心を高め、話したり聞いたり書いたり読んだりする。
- 国語を尊重して、国語そのものを一層優れたものに向かわせようとする意識や態度を育てる。

ICT の活用（考えの可視化、伝え合うツール）

- 情報を取り出したり活用したりする際に整理する。
- 様々な媒体の中から必要な情報を取り出す。
- 情報同士の関係を分かりやすく整理する。
- 発信したい情報を様々な手段で表現する。
- 文章で表された情報を的確に理解する。
- 情報を理解したことを自分の考えの形成に生かす。
- 話や文章に含まれている情報を取り出して整理する。

情報活用能力の育成のために
 児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を日常的に設ける。

ICT を活用した学習場面		
一斉学習	個別学習	協働学習
教員による教材の提示	個に応じる学習	発表や話し合い
	調査活動	協働での意見整理
	思考を深める学習	協働制作
	表現・制作	学校の壁を越えた学習
	家庭学習	

研究主題の設定経緯

《学びに向かう力、人間性等》の捉え

生きる力を育むために、三つの資質・能力を育てる

知識及び技能 学びに向かう力、人間性等 思考力、判断力、表現力等

「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」
という視点を持ち、主体的に学習に取り組む態度等を育てる

「粘り強く学習し、自分の思いや考えをもち、互いに伝え合い、
その中でよりよい自分を目指そうとする態度」



《なぜ、国語科を研究教科に取り上げたか》

自分の思いや考えをもち、互いに伝えるためには、「言葉」の役割に負うところが大きい。全ての教科においてもそれぞれの特質に応じた言語活動を図ることが必要であるが、言葉を直接の学習対象とする国語科の果たす役割はとりわけ大きい。本校では、粘り強く学習し、自分の思いや考えをもち、互いに伝え合うためには、国語科が研究教科の要と考え、授業実践を進めた。



国語科で育成を目指す

「学びに向かう力、人間性等」

- ①言葉がもつよさを認識するとともに、
- ②言語感覚を養い、
- ③国語の大切さを自覚し、
- ④国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養うこと

言葉がもつよさ

- ①言葉によって、自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりすること
- ②言葉から様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりして心を豊かにすること
- ③言葉を通じて人や社会と関わり自他の存在について理解を深めたりすること など

《なぜ、ICT を活用するのか》

理由①

* 「発表することに進んで取り組んでいる児童」は64%

* 「ICTを使った学習に楽しく取り組んでいる児童」は92%

ICTを活用することで、発表が苦手な児童も自分の思いや考えを伝えやすくなる考えたため。

理由②

ICTを使うことで、自分の考えや友達のことを可視化することができ、新しい考えに気付いたり、自分の考えを深めたりできる。それらの活動を通して「言葉がもつよさ」に気付いたり、言語感覚を養ったりできると考えたため。

学校における教育活動全体で児童がICTに親しみ、児童の情報活用能力を伸ばすことが大切です！



2 国語科授業での実践例

手だて1 言葉がもつよさに触れる



1年生「これは なんでしょう」

カードを使ったクイズ作り

2人組でカードを使い、試行錯誤しながらクイズを作ることで、プログラミング的思考を育てることができる。

クイズの答えになる題材の特徴を「形」「動き」「色」「仕事」などの観点に沿ってヒントとしてカードに書き、2人組で話し合いながら並び変えてクイズを作ることで、マッピング機能を使った話し合い活動にも繋げることができた。



3年生「すがたをかえる大豆」

自分では気付かなかった言葉に触れる活動

テーマに沿って3人組で意見を出し合うことで、自分では気付かなかった言葉に触れることができる。

SKY MENUのマッピング機能を活用することで、自分の考えをマップにして可視化することができ、話し合いを通して、みんなの想像力を豊かにすることができた。



3年生「言葉で遊ぼう」

言葉遊びの楽しさを実感させる活動

児童が作った「しゃれ」や「回文」等を紹介し、言葉遊びの楽しさを実感させることで、進んで新しい考えを生み出そうとする意欲をもたせることができる。

考えが浮かばない児童には、PowerPointでヒントを視覚的に示すことで言葉遊びの特徴について理解させ、「しゃれ」や「回文」を考えさせることができた。



6年生「ようこそ、私たちの町へ」

協働でのパンフレット作り

協働でパンフレット作りをすることで自他の考えを交流しながら、考えを形成したり、新しい考えを生み出したりすることができる。

Wordでパンフレットを作成することで、言葉や文章の構成、写真、文字の大きさ等を変更しやすくなり、意見を交流した後にすぐにパンフレットに自分の考えを反映させることができた。

手だて2 思いや考えを伝え合う



2年生「お手紙」

友達の音読のよさを伝え合う活動

2人組で自分が考えた音読の工夫を交流したり、音読のよかったところを伝え合ったりすることで、もっと上手に読みたいという気持ちを高めることができる。

録画機能を活用し、音読を録画・再生・振り返りを行うことで、何回も見直して自分自身の音読を振り返ったり、友達のよさを伝えたりすることができた。



4年生「ごんぎつね」

互いの考えを比較し交流

グループで話し合い活動を行った。一人ひとりの発言回数が増え、より言葉による交流が活発になることで、言語能力を向上することができる。

話し合い場面でコラボノートを活用して複数の意見を同一画面に並べて可視化することで、考えを比較しながら交流することができた。



5年生「すいせんします」

グループでの共有

グループで視点をもって発表を見合い、よい点や改善点を言葉で伝え合うことで、よりよいものをつくらうとする意欲をもたせることができる。

PowerPoint を活用することで、自分の考えが伝わるように表現する工夫の幅を広げることができた。編集や訂正の作業も簡単にできるようになり、粘り強く資料の内容を検討することができた。



6年生「ようこそ、私たちの町へ」

2人組での推敲、共有

友達のパンフレットを読んで、表現や内容、構成の視点からよいところを見付けアドバイスすることで、互いに伝えた言葉によってよりよいものをつくらうとすることができる。

Word を使うことで、2人組で協力しながら簡単に推敲することができた。

3 ICT の活用の実践例

情報活用能力の育成のために



一斉学習

教員による教材の提示

(画面への書き込み機能の活用 1年生・道徳)

場面絵の登場人物の表情や動きに注目させるために画面への書き込み機能を使うことで、登場人物の気持ちを考えやすくなることができた。



個別学習

個の習熟の程度等に応じた学習

(おまかせ教室ラインズeライブラリの活用 3年生・算数)

学校で「おまかせ教室」を活用して授業を行ったことで、操作方法に慣れ、自宅でも学習の習熟度に合わせて、予習や復習ができるようになった。

協働学習

複数の意見・考えを議論して整理

(書画カメラの活用 2年生・生活)

生活科で昆虫について調べてまとめたものを書画カメラを使って発表した。2つを並べて比較し、違いを見つけた。

協働学習

学級全体での発表・話し合い

(書画カメラの活用 4年生・理科)

「星と星座」の単元で、調べたことを電子黒板で発表した。気付いたことや疑問に思ったことを話し合うことで、学習を深めることができた。

協働学習

全員の考えを比較検討して話し合い

(SKY MENUの発表ノートの活用 6年生・特別活動)

司会者が指導用パソコンを操作しながら学級会を行った。発表ノートで全体の考えを集約したり、電子黒板で全員の意見を比較・検討したりすることができた。

協働学習

グループで分担し、ICTで壁新聞を協働制作

(インターネット・Wordの活用 6年生・総合)

オリンピックに参加している国について本やインターネットを使って調べ、ICTで壁新聞を制作した。



協働学習

学校の壁を越えた学習

自宅にいる児童と学級をつなぐ

(GoogleClassroomの活用 5年生・朝の会)

自宅にいる児童と朝の会を行った。好きな本の紹介をしたり、お互いに質問し合ったりして交流を図った。

行事等での活用

1年生ようこそ集会や委員長集会では、GoogleMeetを活用した。6年生がPowerPointで資料を作り、クイズや委員会の紹介を行った。



4 ICT の積極的な活用のために



校内研修の推進

教員がICT を効果的に活用できるように、毎回テーマを決めながら、IT 関連企業から講師をお呼びして校内研修を実施している。

自 聞いて、考えを深めよう

9月25日 (最終編集: 17:49)

期限: 10月5日

今度、国語の学習「聞いて、考えを深めよう」で自分の立場を明確にしながら話し合いを行います。学校で勉強する前に、おうちで動画を見て、自分の立場を明確にしておきましょう。

手順

- ①NHK for schoolの番組「昔話法廷『プレーメンの音楽隊裁判』」を視聴しましょう。
- ②番組を見た後に、自分だったらどのような立場に立つか考えましょう。
- ③どのような立場になるか、コメントを書いて担任の先生に送りましょう。

家庭学習での活用

GoogleClassroom を通して、家庭学習を行い、児童がICT を活用する機会を作った。家庭で課題の動画を視聴させ、予め意見を集約した。授業前に討論会のグループ分けを行うことができ、時間の短縮にも繋がった。

5 臨時休業中の家庭学習での活用

○生活指導動画



朝の会

毎朝決まった時間に配信することで、学校とのつながりを確認し、生活リズムを整えた。また、体操や音楽、教師の体験談を紹介することで学習の意欲を促した。



○授業動画

感染症予防の啓明ルール

感染症予防についての動画を作成し、各学級で指導をしたことで、統一した指導ができた。また、各家庭への啓発にもなった。

入学前の指導、鉛筆の持ち方

鉛筆の持ち方や書く姿勢のポイントを担当が手本を示して伝えたことが、家庭での学習支援につながった。



1ダースは12本です。

4ダースだと
ぜんぶで何本になりますか？

九九を見なおそう⑤
● 標準公開

113 回視聴・2020/05/14

算数の授業

導入からまとめまで普通の授業と同じように、1人で学習を進められるようにした。

理科の事象提示

学校の畑で事象提示を行ったことで、自分事として問題を捉えられるようにした。



3,4年体育 「レベルアップトレーニング」

● 標準公開

日常的に取り組める運動

家庭でも簡単にできる運動を配信し、日常的に運動に親しめるようにした。



理科 植物の成長と日光の関わり①

00:56

00:00

6 研究の成果と課題

質問内容	R元年	R2年
国語の学習で発表することに進んで取り組んでいますか	64%	74%
自分の思いや考えを友達に伝えようとしていますか	76%	82%
友達の意見を聞いて助言し合ったり学び合ったりしていますか	74%	86%
国語で学んだことを他教科に役立てようとしていますか	78%	83%

(全校児童対象 R元年6月 R2年9月実施)

○ICT を活用することで、自分の思いや考えを友達に伝えようとする児童が増えた。

○友達と学び合う機会が増えたことで、言葉がもつよさに触れる機会が多くなった。

○国語科を要として言語活動の充実を図ったことで、他教科でも自分の思いや考えを伝え合おうとする児童が増えた。

△国語科を要として、他教科・他領域との関連、教科等横断的な学習を工夫し、学びに向かう力、人間性等を育てていく。

△今後、GIGA スクール構想を見据え、オンライン学習の推進と児童自身の情報活用能力の育成を図っていく。



ご指導いただいた講師の先生

前鎌倉女子大学准教授 守屋 一幸 先生
中野区立第四中学校校長 熊谷 恵子 先生



本年度、研究に携わった教職員

◎研究主任 ○研究推進委員

[校長] 中村 明子

[副校長] 山田 研二

[低学年分科会]	[中学年分科会]	[高学年分科会]
[1年] ◎長谷川 裕子 渡邊 聡介	[3年] ○増渕 優梨 鈴木 利枝	[5年] 鶴淵 秀人 ○大畑 久美子
[2年] ○大塩 依理子 尾瀬 勇次	[4年] 清水 良太 ○水村 亮	[6年] ○市倉 尚 笠原 麻衣子
[図工] ○小堀 英男	[少人数算数] 大日方 秋乃	[音楽] ○知念 祥子 [養護] 小島 麻衣子

[任期付短時間勤務教員] 中澤 信子

[副校長補佐] 小西 静恵

[非常勤教員] 阿部 文子

[特別支援教室専門員] 関口 亜希子

[講師] 田邊 紀子

[学校図書館指導員] 伊藤 晴香

平野 真穂

[都事務] 渡辺 信宏

鈴木 洋子

[地域連携担当主査] 松村 浩志

[学校支援員] 花村 美奈

昨年度、研究に携わった教職員

鈴木 栄子 川嶋 沙絵里 山浦 悠 齋藤 瑠璃子 古見 優駿 高塩 勉

